

伊豆分場だより

第 3 8 3 号

目 次

巻 頭 言

黒潮大蛇行の終息・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

調査研究から

ブダイの海藻摂食選択試験・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

普及・地域の話

令和7年度マダイ中間育成の記録・・・・・・・・・・・・ 3

県民の日特別企画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

東部地区漁業士会と行政との意見交換会

～地域の課題について話し合いました～・・・・・・・・ 6

漁 海 況

白浜の定地水温・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

令和7年7～9月の伊豆半島東岸定置網漁況・・・・ 8

分場日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場

令和7年10月

巻頭言

黒潮大蛇行の終息

「2017年8月から約7年9か月続いた黒潮大蛇行は2025年4月に終息した」と、2025年8月29日に気象庁及び海上保安庁から正式に発表されました。

黒潮の大蛇行とは「本州南方の東経136度～140度で北緯32度以南まで大きく蛇行して黒潮が流れること」（気象庁HPより）を言います。大蛇行の流路となると伊豆半島沿岸に黒潮が近接するため、沿岸の水温が高くなり、藻場の衰退やそれに伴うアワビ等の磯根資源の減少を引き起こすことが知られています。

黒潮が大蛇行の流路となってから、カジメを中心とした藻場の生育状況について、これまで伊豆分場だより第353号「12年振りの黒潮大蛇行と磯焼け」、第361号「カジメ磯焼け状況」、第365号「磯焼け調査報告」、第368号「カジメの磯焼け状況」、第372号「カジメ磯焼け調査報告」で報告してきました。これによると、①カジメ成体の葉部が消失し、茎だけになるが、幼体がたくさん認められる状況から、②カジメの成体が認められなくなり、幼体も少なくなり、③カジメは成体も幼体も認められなくなるというような流れで、沖側から衰退が始まり、陸側に向かって進行していくことが分かります。さらに、カジメの藻場が衰退したここ数年においては海藻を餌とするアワビ等の貝類が餓死し漁獲量が激減、イセエビにおいても漁獲量の減少が認められています。

伊豆分場では黒潮の大蛇行が終息した後にカジメの藻場を速やかに回復させるため、漁業者等と連携し、海藻を食べる魚類の食害対策を行った上でカジメの移植活動を進めてきました。これまでのところ各地区数㎡の規模ですが、1年以上生育させることに成功している地区もあり、これらの海藻から遊走子（陸上の植物の種のようなもの）が放出され、今後、周辺に生育が拡大することを期待しています。

さらに、カジメに比べ生長の早いアントクメ（西伊豆では「しわめ」や「トントメ」と呼ばれている）に着目し、これらの移植も併行して進めていく予定としています。

2025年4月の黒潮大蛇行の終息から現在まで数か月しか経っておりませんが、現段階で海藻の生育状況に目立った変化は認められておりません。ただ、2025年夏の水温はこれまでと違い低めに推移しており、白浜の定地観測水温の月別平均水温では特に8月に前年の-3.6℃となりました。

これまでの、これからの積極的な海藻の移植活動により速やかに藻場が回復することを期待しつつ、どこからどのように藻場が回復していくのか継続的に調査を実施し、伊豆分場だよりで報告していきたいと思えます。（山田博一）

ブダイの海藻摂食選択試験

本研究は、2017年8月から2025年4月まで継続した黒潮大蛇行による伊豆地域の磯焼けの進行とアワビ等の磯根資源の漁獲量減少を踏まえ、藻場の復活の起点となる海藻移殖技術を開発することを目的として行っています。ここでは2025年度に行ったブダイの海藻摂食選択試験を紹介します。

アワビ漁獲量の減少を改善するためには海藻移殖によって藻場を回復させ、天然に生育するアワビの餌を確保する必要があります。移殖した海藻が生残し続けるためには、藻食性魚類、特に伊豆地域で頻繁に確認されるブダイに摂食されにくいことが望ましいです。そこで、2025年6月5日に白浜で採捕したブダイ4個体を用いて海藻摂食選択試験を行いました。海藻はカジメ、テングサ、ノコギリモク、アントクメの4種を同量ずつネットに固定したものを水槽内に設置し、ブダイが3時間のうちに摂食する量を比較しました。同時に、水中カメラによる動画撮影を行い、その様子を観察しました。その結果、カジメの摂食量が他の3種海藻よりも明らかに多く（図1）、水中映像からもカジメを積極的に摂食する様子が確認されました

（図2）。カジメとアントクメはコンブ目の海藻種であり、どちらもアワビの餌料となる海藻ですが、ブダイの摂食選択性には大きな差があることが明らかになりました。また、水中映像から、ブダイがカジメを摂食する際は葉状部から摂食し、付着器部分も摂食する一方で、アントクメでは葉状部よりも付着器部分を積極的に摂食する傾向が高いことが分かりました。

過去に同様の海藻種で行ったアワビ稚貝の摂餌試験からは、アントクメが他の3種よりもアワビ稚貝の成長に効果的であることが明らかになっていますが、今回の試験からアントクメはカジメと比較してブダイに摂食されにくいこともわかりました。このことから、今後、アントクメを用いた海藻移殖によって藻場を回復し、アワビ資源と漁獲量の回復に役立てていきたいと思えます。

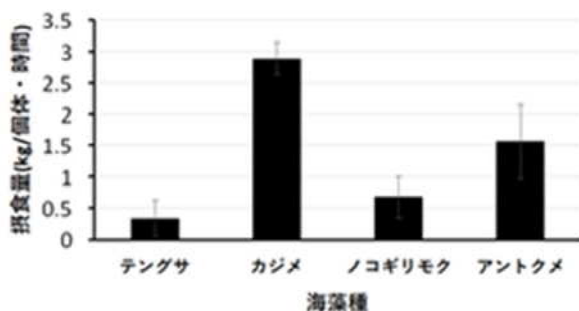


図1 海藻ごとの摂食量



図2 摂食の様子

(角田充弘)

令和7年度マダイ中間育成の記録

令和7年度の伊豆地域のマダイ中間育成は、田子で5月29日に、網代で5月28日に、種苗を海上生簀に搬入する沖出しから始まりました。両地区の沖出し尾数は、網代が34.7万尾、田子19.2万尾であり、計画どおりの尾数が沼津の温水利用研究センターから供給されました。

今年度は、田子、網代で病気が発生し、一時、多くの死亡が見られましたが、飼育担当者の迅速な対応により、数日のうちに病気が沈静化しました。沖出し後の種苗は、約40日間の飼育により、放流目標サイズの尾叉長60mmを超えたため(図1、2)、網代で7月3日、田子で7月11日に生残(放流)尾数を確認する計数作業が行われました(図3)。

その結果、今年度の歩留まりは網代が58.2%、田子が79.7%、放流前の平均尾叉長は網代で63.4mm(7月3日測定)、田子で70.4mm(7月11日測定)でした。計数が終了したマダイは各地区へ運ばれ、漁業関係者や地元の方々の手によって放流されました(図4)。



図1 マダイ稚魚尾叉長測定



図2 マダイ稚魚の様子



図3 田子計数作業の様子



図4 稲取地区放流の様子

(角田充弘)

県民の日特別企画

8月8日、県民の日特別企画として、伊豆分場では「①ところてん作りとムラサキウニの解剖体験」と「②展示室の夜間開放&夜までタッチプール」を実施しました。

①のところてん作りとムラサキウニの解剖体験は事前予約制の企画で、6組（16名）が参加し、伊豆のてんぐさ漁業について職員から説明を聞いた後、子供達は大人と一緒にところてんづくりに挑戦しました。材料はさらしてんぐさと呼ばれる海から採ってきたてんぐさを真水にさらして干したもので、これを水と少量の酢で煮出したものを冷やして固めるとところてんになります。

テングサを鍋に入れて煮出している間に、磯焼けの原因の一つであるムラサキウニを解剖しました。興味津々で解剖を進める子、ウニが怖くてなかなか作業に移れない子など、それぞれが個性を発揮しながらウニの体の構造や可食部等を観察し、磯焼けとの関係を学びました。

ウニの解剖の後は、展示室や場内の研究施設を見学し、タッチプールで磯の生き物に触れ、最後に冷蔵庫で冷やし固めたところてんをお土産として持ち帰っていただきました。

また、申込み不要で誰でも参加できる、②の展示室の夜間開放と夜までタッチプールは、様々な年齢の子供達が楽しんでくれました。



写真1 左から順に、さらしてんぐさ、てんぐさを煮出す様子、鍋の中を確認する参加者



写真2 左から順に、座学（ウニの構造について）、解剖に挑戦する様子



写真3 タッチプールの様子

昨年は、前日の会場準備が終わった後に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発令され、会場としても無念のイベント中止判断となりましたが、今年は無事開催できた上、多くの子供達が参加してくれたことを大変嬉しく思っています。

今後も、このような機会を利用して、伊豆の水産業や海の生き物についての理解を深めてもらうイベントを実施していきたいと思えます。

（松浦玲子）

東部地区漁業士会と行政との意見交換会

～地域の課題について話し合いました～

9月9日、東部地区漁業士会と県行政との意見交換会が東伊豆町稲取（西区公民館）にて行われ、地区漁業士26名、地区名誉漁業士1名のほか県内水産団体職員、県庁職員、伊豆分場職員が参加しました。

意見交換会に先立ち東部地区漁業士会総会が開催され、岩瀬清敏会長（稲取）が議長を務める中、この一年間の活動内容、新規指導漁業士候補者の報告、令和8年2月に伊東市にて開催が予定されている県漁業士会総会の周知等が行われました。

行政との意見交換会では、会場職員から「伊豆半島各地で行われている磯焼け対策活動～海藻移殖、食害生物の採捕とその利活用」について話題提供を行いました。磯焼け対策として漁業者が海藻を移殖する取組は伊豆半島沿岸各地で行われていますが、今回紹介した内容は海藻を食べてしまうブダイをいかに漁業の収入源に変えていくかといった、次の段階を目指した取組内容や、夏のブダイは臭いというイメージを払拭する分析結果を紹介し、食品としてより高く評価されるためのブダイの処理方法や、新たな流通先について情報提供を行いました。

会議の間では、刺網から外す手間に見合う単価が必要、量が安定しないと市場では価格を維持できないといった意見が交わされ、後日、参加した漁業士から刺網にかかったブダイの処理や販売方法に関する問合せが当場に寄せられました。また、磯焼け以外の話題として、キンメダイ漁の操業時に相変わらず食害が多い（バラムツ、イルカ、サメ）といった意見が出されました。

この会は、地区の漁業者の取組や課題を行政側に知ってもらい、課題解決に向けた意見をお互いに出し合う場として設けています。当日話し合った結果が、伊豆半島の漁業現場の力になるよう、分場としても支援を継続していきたいと思えます。



写真 意見交換会の様子

(松浦玲子)

漁海況

白浜の定置水温

7～9月の白浜の水温は、平年値と比べて7月は「やや高め」～「かなり高め」、8月は「低め」～「やや高め」、9月は「やや低め」～「平年並み」で推移しました(表1)。黒潮流路は令和7年7月から9月までの期間、C型で推移しました。

表1 白浜定置水温の変化(令和7年7～9月)

月	旬	平均(°C)	平年差	前年差	最高	最低
7月	上旬	24.5	3.6	2.5	27.0	22.2
	中旬	25.5	3.8	3.2	26.8	24.2
	下旬	24.5	1.3	0.1	25.4	22.6
平均		24.8	2.8	1.9	27.0	22.2
8月	上旬	25.0	0.7	-2.1	26.3	22.7
	中旬	21.8	-3.0	-5.5	24.2	18.8
	下旬	23.5	-1.7	-3.3	25.2	20.9
平均		23.4	-1.3	-3.6	26.3	18.8
9月	上旬	24.1	-1.1	-2.4	25.9	22.0
	中旬	23.8	-1.3	-2.7	25.4	22.1
	下旬	24.1	-0.2	0.3	24.9	23.3
平均		24.0	-0.9	-1.7	25.9	22.0

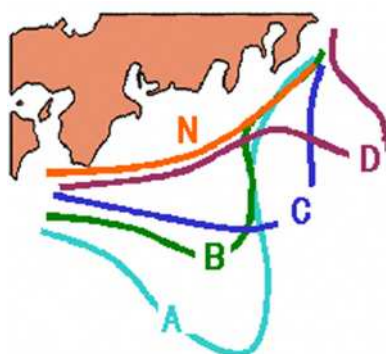


図1 黒潮流型

※水温の平年偏差の目安

かなり低め: $\sim -2.5^{\circ}\text{C}$ 、低め: $-2.4^{\circ}\text{C} \sim -1.5^{\circ}\text{C}$ 、やや低め: $-1.4 \sim -0.5^{\circ}\text{C}$

平年並み: $\pm 0.4^{\circ}\text{C}$ 、やや高め: $0.5 \sim 1.4^{\circ}\text{C}$ 、高め: $1.5 \sim 2.4^{\circ}\text{C}$ 、かなり高め: $2.5^{\circ}\text{C} \sim$

(松浦玲子)

令和7年7～9月の伊豆半島東岸定置網漁況

(1) 月別漁獲量

伊豆半島東岸大型定置7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）における令和7年7～9月の月別漁獲量は表1のとおりでした。

表1 伊豆東岸定置網の月別漁獲量

月	漁獲量 (t)	前年比	平年比
7月	316	1.87	1.12
8月	193	0.66	0.61
9月	224	0.62	0.67
合計	732	1.05	0.80

(2) 魚種別漁獲量

多獲された魚種の月別漁獲量と主な漁場は表2のとおりで、さば類、マアジ、マイワシが多く漁獲されました。

さば類はゴマサバ主体で、いずれの月も漁獲量が多く、前年を上回りました。マアジはいずれの月も漁獲量が多く、平年を上回りました。マイワシは7、8月に漁獲量が多く、特に8月は前年を大きく上回りました。

表2 各月の上位5魚種の漁獲量と主な漁場

月	順位	魚種名	漁獲量 (t)	前年比	平年比	主な漁場
7月	1	さば類	84.7	2.13	0.77	北川、谷津
	2	マイワシ	79.2	1.85	2.11	伊豆山、古網
	3	マアジ	33.6	1.15	1.09	伊豆山、古網、赤沢
	4	ブリ	29.6	36.29	1.77	古網
	5	カタクチイワシ	25.8	—	1.11	古網、伊豆山
8月	1	さば類	76.2	3.65	0.55	北川、古網
	2	マアジ	35.1	0.22	1.05	古網、谷津、伊豆山、赤沢、北川
	3	マイワシ	21.8	46.74	0.68	古網、谷津
	4	マルソウダ	12.4	1.03	0.61	古網
	5	ヤマトカマス	6.3	0.15	0.38	北川、古網、谷津、赤沢
9月	1	さば類	83.5	1.91	0.65	古網
	2	マアジ	36.8	0.98	1.54	古網、伊豆山、谷津
	3	マルソウダ	14.1	0.18	0.29	古網、伊豆山、谷津
	4	ブリ	13.6	0.99	1.02	古網、伊豆山
	5	ウルメイワシ	11.8	2.59	2.03	古網、伊豆山

(鈴木勇己)

分場日誌 (令和7年7月-9月)

7月1日	イセエビコレクター設置(南伊豆)	8月4日	賀茂船主キンメ部会役員会(下田)
7月3日	マダイ計数・巡回(網代)	8月18日	相模湾漁海況研究協議会 (小田原)
7月8日	マダイ放流(稲取)	8月28日	技術連絡協議会(Web)
7月11日	マダイ計数・放流(田子)	9月2-5日	インターンシップ受入れ(場内)
7月17日	水産庁増殖推進部長視察(場内)	9月4日	共同漁業権運営委員会(下田)
7月22日	水産業の未来づくり推進会議(静岡市)	9月9日	東部地区漁業士会行政との意見交換会(稲取)
7月24-25日	さけ・ます等栽培対象資源対策事業研究推進会議(福岡)	9月10日	イセエビ生産者会議(南伊豆)
7月29-30日	太平洋ブロック資源評価・魚海況予報会議(横浜)	9月11日	マダイ資源評価担当者会議(Web)
8月1日	キンメダイ資源評価会議(横浜)	9月12日	海業本部会議(熱海)
8月4-5日	いわし類・マアジ資源評価会議(Web)	9月19日	マダイ中間育成反省会(静岡)

令和8年4月15日発行

発行 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場
下田市白浜 251-1 (〒415-0012)
TEL <0558>22-0835 (代)
FAX <0558>22-9330
<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>
E-mail:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp
編集 伊 豆 分 場